

横浜市総合リハビリテーションセンターにて、自閉スペクトラム症(ASD)の人たちを対象とした長期間の追跡調査にご協力頂いた方へ研究にご協力をお願いいたします。

2024年4月26日

「横浜市港北区の出生コホートの長期追跡調査に基づく自閉スペクトラム症の折れ線現象と転帰との関係に関する研究」を実施しています。

本田秀夫医師が所属する共同研究機関である、信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	6160
研究課題名	横浜市港北区の出生コホートの長期追跡調査に基づく自閉スペクトラム症の折れ線現象と転帰との関係に関する研究
所属(診療科等)	信州大学医学部精神医学教室
研究責任者(職名)	鷺塚 伸介
研究実施期間	2024年4月22日～2026年3月31日
研究の意義、目的	自閉スペクトラム症の人たちの一部で乳幼児期にみられる「折れ線現象」(いったん獲得した発語などの機能が見られなくなる現象)がみられた人が、大人になるまでの経過を明らかにすることを目的とした研究です。折れ線現象の有無によって成人期の転帰にどのような影響があるかを明らかにすることで、自閉スペクトラム症に対する理解が深まり、今後の支援に生かせる知見が得られることが期待されます。
対象となる方	1988年から1996年間に横浜市港北区に出生し、横浜市総合リハビリテーションセンターで実施した長期追跡調査(Y-LABiC スタディ:2017年～2020年に実施)にご協力頂いた自閉スペクトラム症の方
利用する診療記録	性別、自閉症状、折れ線現象の有無、IQ、てんかんの既往歴、成人期の社会参加の状況など
他機関への情報の提供方法	Y-LABiC スタディを実施した際、参加者の個人情報を匿名化したデータベースを作成しました。その際、参加者の個人情報と無関係の番号による対応表を作成し、横浜市総合リハビリテーションセンターで厳重に保管しています。本研究では、この匿名化したデータベースの一部が信州大学に提供されます。
研究方法	2017年～2020年に実施した長期追跡調査の際に収集し、匿名化したデータの一部を用いて、折れ線現象と転帰の関係を統計解析で調べます。

共同研究機関名	信州大学(責任者:鷺塚 伸介)
研究代表者	主任施設の名称:信州大学 研究責任者:鷺塚 伸介
問い合わせ先	氏名(所属・職名): 本田 秀夫(信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 教授) 電話:0263-37-3117 氏名(所属・職名): 大園 啓子(横浜市総合リハビリテーションセンター 発達支援部担当 部長) 電話:045-473-0666

既存のデータベースを研究、調査、集計しますので、新たな情報収集の必要はありません。

利用する情報からは、患者様を直接特定できる個人情報を削除し、主任施設である信州大学に提供します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、同意取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。